2026 年度

研究分野	授業科目名	科目責任者
形態系分野	放射線腫瘍学特論Ⅰ・Ⅲ	勝井 邦彰

開講年次	共通／専攻／選択	単位数	
1,2,3,4	特論Ⅰ：必須専攻, 特論Ⅲ：選択	特論Ⅰ：4（2/年）, 特論Ⅲ：1/年	

目的

癌の集学的治療における「放射線治療」の立ち位置を理解するために,
（1）放射線治療の Benefit と Risk を理解する。
（2）放射線治療医として，外科医とも内科医とも異なる視点を身につける。
（3）放射線治療のみならず，全体が見渡せる「がん治療医」能力を修得する。

授業到達目標

（1）放射線治療の種類とその特性を具体的に説明できる。
（2）放射線感受性に影響する因子を列挙することができて，どのように臨床応用されているかを考えることができる。
（3）放射線治療を実施した場合の Benefit と Risk を，臨床面から具体的に説明できる。

授業計画

回数	月日	曜日	時間	担当者	区分 1	区分 2	授業内容
1	隔週	火	17:00-18:00	林 貴史	講義	[抄読会]	最新の高精度放射線治療の論文を紹介して，それに対する考察・討論を展開する。 [場所:総合医療センター 放射線治療センター]
2	毎週	水	17:00-18:00	勝井 邦彰	講義	[症例検討会]	呼吸器合同カンファレンス・呼吸器 Cancer Board (呼吸器内科，呼吸器外科，病院病理部) [場所:本館 9F 中病棟カンファレンス室]
3	毎週	月	17:30-18:30	釋舎 竜司	講義	[症例検討会]	造血幹細胞移植カンファレンス（血液内科） [場所:本館 10F 西病棟カンファレンス室]

評価方法

【特論Ⅰ】
（1）１年間※で 30 時間出席し，科目責任者から履修手帳に出席印をもらい，提出する。
（2）１年間※で，論文紹介または症例発表を２回行い，その要約２編を提出する。
【特論Ⅲ】
（1）１年間※で 15 時間出席し，科目責任者から履修手帳に出席印をもらい，提出する。
（2）１年間※で，論文紹介または症例発表を２回行い，その要約２編を提出する。
ただし，特論Ⅰ・Ⅱで紹介したものとは異なる論文（症例）であること。
特論ⅠとⅢの同年度での重複受講は不可とする。
※１～３年生は２月末まで，４年生は 11 月末までの講義を当該年度の単位認定の対象とする。

課題（レポート等）に対するフィードバック

紹介論文の要約について，添削して返却する。

教科書

ISBN-978-4307071314, 放射線治療計画ガイドライン 2024 年版, 日本放射線腫瘍学会編, 金原出版, 2024

参考書

ISBN-978-4-05-520049-3, がん・放射線療法　改訂第８版 , 大西洋,唐澤久美子,西尾禎治,石川仁編著, Gakken, 2023

準備学習（予習・復習等）

事前に不明箇所をチェックしておくこと。毎回の講義後も提示論文や症例の復習をすること。

修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

医学・医療分野を牽引し，指導的役割を果たすことができる。

注意事項・メッセージ

「Benefit と Risk」のバランスは，治療法の進歩に伴って変化します。
常に最新の知見に基づいて判断することの重要性を認識してください。
代表的な基礎的および臨床的英文論文を読む習慣を身につけてください。